

姉妹で青年海外協力隊！

a 金山 協子さんと忍さんは、姉妹で青年海外協力隊に参加しました。姉の協子さんは、フィリピンで活動（1年度1次隊 食品加工）したのち、現在は「ふくしま青年海外協力隊の会」（以下FOCA）に所属しています。一方の妹、忍さんは、現在タイへ派遣されています（21年度4次隊 陶磁器）。

妹の忍さんが参加するにあたり、姉の協子さんの影響はありましたか、と協子さんに尋ねたところ、協子さんが帰国後に活動で知り合った友人を訪ねながらアジアやアフリカ、中東を旅行したときに、忍さんも一緒に同行したこと、協子さんが関わるFOCAの活動と一緒に参加したことなどを通して、隊員との関わりが身近にあったことがきっかけになったのでは、と話してくださいました。



後列左から3番目の忍さんと陶芸を学ぶ学生たち

現在活動中！ タイの忍さんからのレポート

バンコクから車で東へ1時間半、国立ブラパー大学があります。生徒数1万人以上という大きな国立大学です。私はここの芸術学部で陶芸の技術指導を行っています。普段タイ語で授業を行っていますが、独特の声調があり、半年たった今でもなかなか上手く発音できません。生徒に発音を教わりながらの、たどたどしい授業です。しかし、生徒はそんな私を慕ってくれます。物作りを通してお互いを知り、言葉だけではない心のコミュニケーションがそこにはあると思います。これからも心で話し、世界を繋げる一端になればと…明日もがんばります！



▲制作中の忍さん

姉の協子さんから 忍さんへのメッセージ

「今度、協力隊の試験に合格しなかったら、もう、受験しない。」と話していた妹が、3度目の挑戦で協力隊の試験に合格し、今年の3月にタイに飛び立ちました。現在、彼女はタイ語のコミュニケーションに苦労しながらも配属先の大学で陶芸を学生達に指導しています。

私と妹は11歳年が離れており、私が協力隊員としてフィリピンで活動していた頃、妹は中学生でした。まだまだ、幼いと思っていた妹が、いつの間にか同じ話題で話し合うようになり、協力隊活動に興味を持ってくれたことはとても嬉しいことでした。

そして今、妹から時々電話で、タイの人々と楽しく生活している話や新しい活動の話や聞くと2年後彼女が、どんなふうにな成長して帰国するのが楽しみになってきます。でも、身体には十分気をつけて無事に活動を終えて帰国してくださいね！



◀派遣当時の協子さん



隊員だった頃フィリピンで学生と活動している様子。前列中央が協子さん、左端がカウンターパート。

二本松ちょうちん祭り

に参加しました。

10月4日～6日までの3日間、二本松ちょうちん祭りにJICAブースを出展しました。二本松ちょうちん祭りは360年の歴史を持ち、「日本三大提灯祭り」と言われる伝統ある祭典です。当日は世界地図を用いたクイズ、新聞紙でエコバッグ作り、JICAボランティア秋募集の資料配布を行いました。とくに小中学生同士や親子連れがブースを訪れ、クイズやエコバッグ作りを楽しんでいました。参加者からは「訓練所には行ったことがないが、知るいい機会になった」との声が聞かれました。



世界のクイズに挑戦！



たいこ台が祭を華やかに盛り上げます

イベント情報

FUKUSHIMA
GLOBAL SEMINAR
2010

